

都市計画マスタープラン演習 課題 G1

人口・財政班

班員：河遼斗 飯塚太一 白崎有紗 田路柊介 春名総一郎 藤田勝成 松井陽仁

TA：田村侑介

1. 人口

A) 基本情報

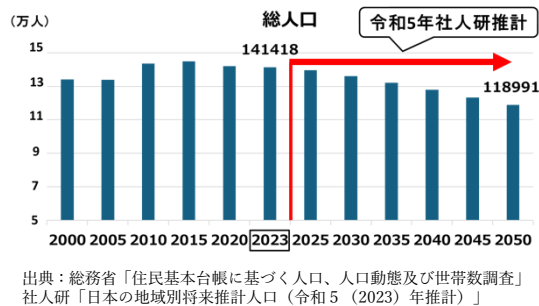


図1 総人口の推移と将来推計

土浦市の総人口は 2023 年の時点で 141418 人となっている。2023 年に行われた国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の将来推計によると、近年減少傾向にある土浦市の人口は今後も減少を続け、2050 年には 118991 人になるとされている。

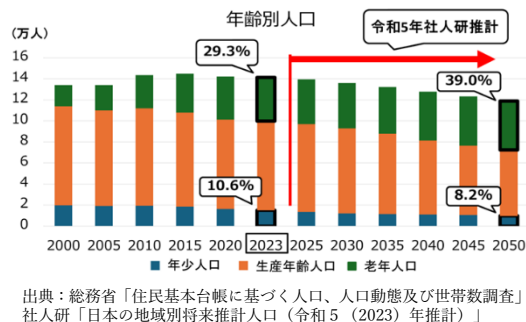


図2 年齢別人口の推移と将来推計

土浦市の年齢別人口を見てみると、2023 年の時点では、年少人口が 15059 人で全体の 10.6%、生産年齢人口が 84910 人で全体の 60.0%、老年人口が 41449 人で全体の

29.3%となっている。同じく 2023 年に行われた社人研の推計によると、2050 年には年少人口が 9786 人で全体の 8.2%、生産年齢人口が 62750 人で全体の 52.7%、老年人口が 46455 人で全体の 39.0%となり、少子高齢化がより一層進んでしまうとされている。

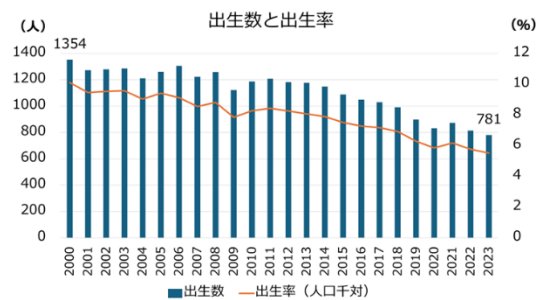


図3 出生数と出生率の推移

土浦市の出生数、出生率（ここでは人口 1000 人あたりの出生率）は年々減少している。2000 年には出生数 1354 人、出生率 10.1%であったが、2023 年では出生数 781 人、出生率 5.5%とどちらも約 4 割も減少している。総人口の減少に伴い、今後も減少していくと考えられる。

一方、増えている属性もある。それが在留外国人数である。下記のグラフは茨城県データ集の市町村別在留外国人数をもとに作成した土浦市の在留外国人数の推移である。これを見ると年々在留外国人数が増加していることがわかる。また、国籍で見ると東南アジアの人が徐々に増えている。昔からフ

フィリピン人は多いが、近年著しく増加しているのはベトナム人であり 2016 年から 2023 年までに 1000 人近く増加している。

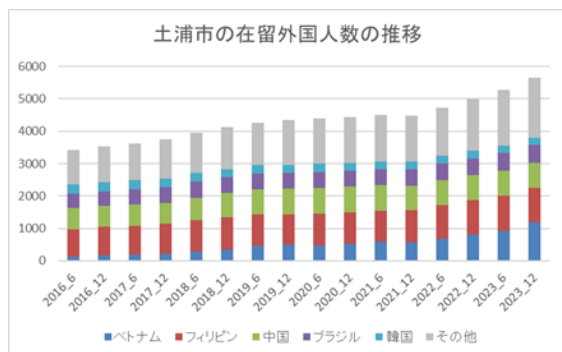


図 4 土浦市の在留外国人数の推移

B) 人口の出入り

1.通勤・通学者（短期的な移動）について

1.1 通勤・通学者について

ここからは土浦市における通勤・通学者について見ていく。土浦市における通勤・通学者は 83429 人になっており、そのうち市外から土浦市への通勤・通学者は 42380 人で通勤者が 35203 人、通学者が 7177 人となっている。このことから土浦市で働く人の約半数が市外からの人であるということが分かる。また土浦市に住民票を置いている通勤・通学者は 70849 人であり、そのうち土浦市から市外への通勤・通学者の数は 30160 人で通勤者が 27424 人、通学者が 2736 人という内訳になっている。

B.1.2 通勤・通学者の属性について

次に通勤・通学者が土浦市からどこへ行き、どこから来ているのかという属性について見ていく。次の図は通勤・通学者の属性において上位の項目を分かりやすく抜粋したグラフになっている。これを見ていくと流入人口も流出人口もつくば市が他の自治体と比較しても圧倒的に多くなっている。

また近隣自治体に関しては土浦市からの流出人口よりも土浦市に入ってくる通勤・通学者の方が多いという傾向にある。県外に対する関係を見ていく市内に入ってくる人の数はそれほど多くないが、土浦市から県外に出ていく通勤・通学者の数は特に東京に多くなっており、これは流出人口全体で見ても 2 番目に多い。このことから土浦市はより大きな都市に対しては通勤・通学者が流出しており、土浦市よりも小さな都市から市内に通勤・通学者が集まってきているという傾向にある。

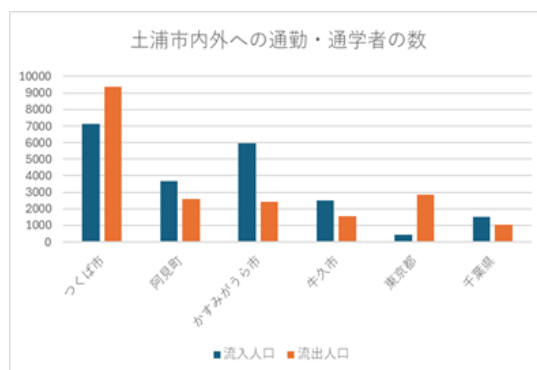


図 5 土浦市内外への通勤・通学者数

1.3 通勤・通学者の年代層

最後に年代別について見ていく。まず流入人口（市外から土浦市への通勤・通学者の数）について見ていくと 15~19 歳までと 70 歳以上は比較的少ないがそれ以外ではどの層も 4000 人以上も土浦市に来ているということが分かる。

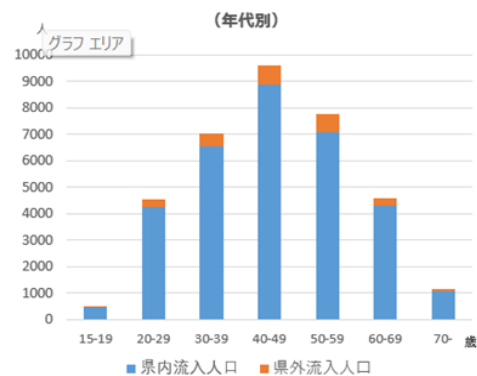


図 6 年代別の土浦市への流入人口数

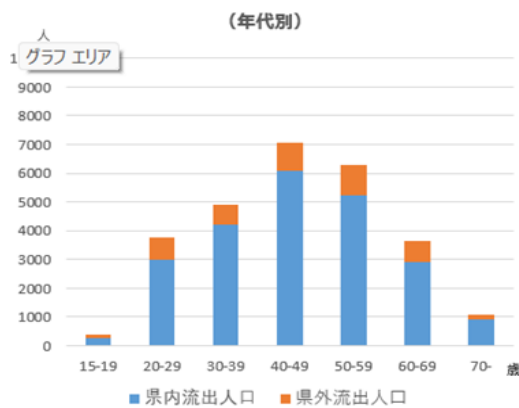
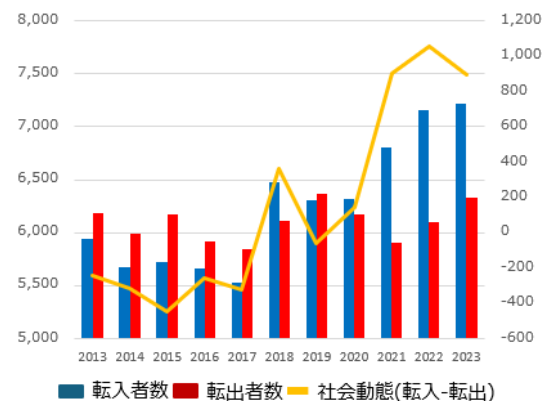


図 7 年代別の土浦市からの流出人口数

流出人口（土浦市から市外への通勤・通学者）について見ると、流入人口と同じように 20 代から 60 代までの層が多く、40 代が最も流出が多い層になっている。この要因としては通勤者の数が通学者の数よりも圧倒的に多いことが影響していると考えられる。また県内では流入人口がどの年代層でも流出人口よりも多くなっている一方で、県外への出入りについて着目すると県外への流出人口が 4495 人に対し、県外からの流入人口は 2635 人で流出超過の傾向にある。各年代で詳しく見ても県外に対しては流出人口の方が全ての層で多くなっているという特徴がある。

以上のことから短期的な出入りの分析からは通勤・通学者では昼間人口においては市外の人が多く含まれていると考えられ、課題として土浦市への通勤・通学時の流入・流出に伴う交通混雑への対策や流入人口にも合わせた街づくりが必要だということが挙げられる。

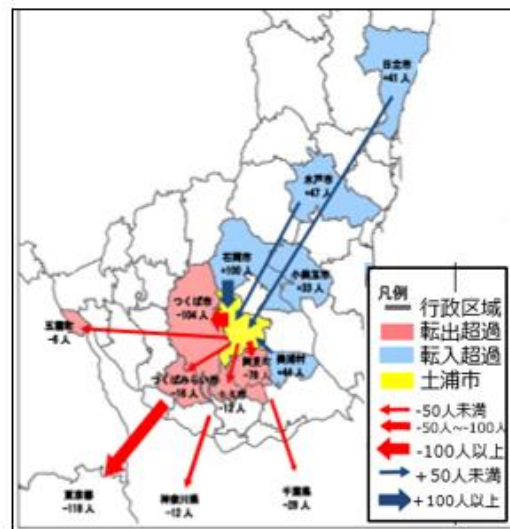
2. 転入・転出(長期的な移動)について



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 8 土浦市と茨城県内外との社会移動数(純移数)(2018 年)

図 8 より、土浦市では、近年転入者数が転出者数を上回る転入超過の傾向にあり、コロナ禍の 2021 年以降、特にその傾向が顕著である。



出典:第2期土浦市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略

図 9 土浦市と茨城県内外との社会移動数(2018 年)

転出先としては首都圏や県南地域、転入は県北地域からが多く、北から転入し、南へ転出するという流れがあることがわかる。土浦市と茨城県外との社会移動(図 10)では、15~25 歳人口が進学や就職を機に首都圏へ転出する傾向にある。70 歳以上人口が首都圏から転入してくる傾向にある。これは、定

(人)

150
100
50
0
△ 50
△ 100
△ 150
△ 200
△ 250
△ 300

28 36 8 5 35 93 37 25 14 4 22 6 6 2 11 2 22 27 26 21 13
△ 4 △ 8 △ 3 △ 61 △ 26 △ 41 △ 45 △ 20 △ 18 △ 11 △ 13 △ 8 △ 2 △ 10 △ 25 △ 0 △ 1 △ 3 △ 0

0～4歳 5～9歳 10～14歳 15～19歳 20～24歳 25～29歳 30～34歳 35～39歳 40～44歳 45～49歳 50～54歳 55～59歳 60～64歳 65～69歳 70～74歳 75～79歳 80～84歳 85～89歳 90歳以上

北海道・東北
北陸・東海
九州・沖縄
北関東
関東西
中国・四国
東京圏
移動前の住所不明
総数

図 10 土浦市と茨城県外の社会移動

[illegible]

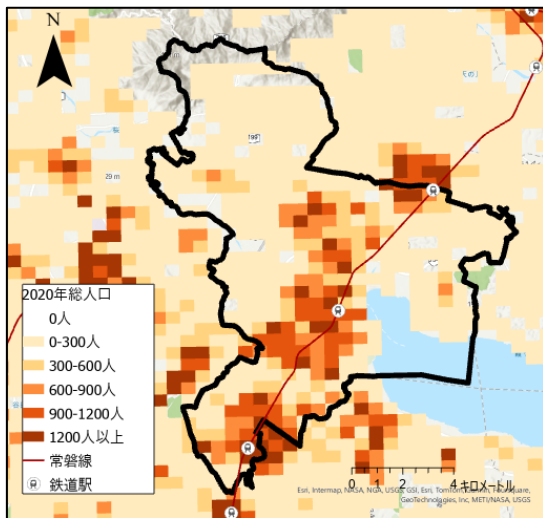
図 11 土浦市と茨城県外の社会移動

出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

C) 地区別分析

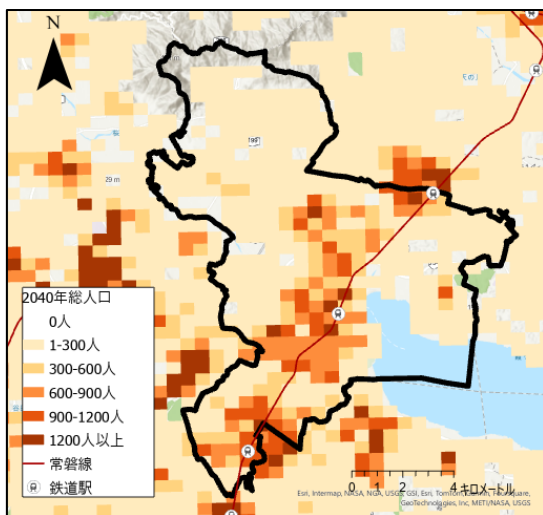
1.人口分布

4



出典:2020 年国勢調査

図 13 2020 年人口分布



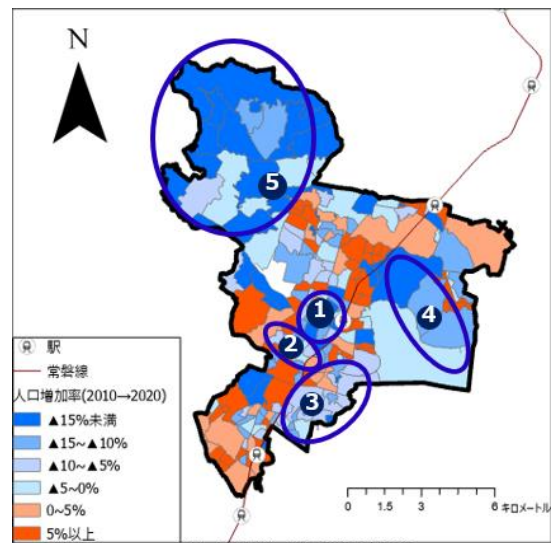
出典:社人研推計

図 14 2040 年人口分布

2.地区別人口増減率

2.1 人口が減少した地区

2010 年から 2020 年にかけて人口が減少した地区としては、主に①から⑤の 5 つの地区が挙げられる。

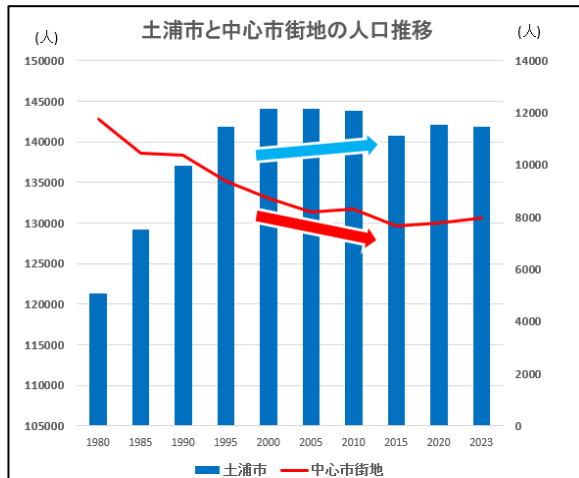


出典:2010年、2020年国勢調査

図 15 2010 年から 2020 年の人口増減率（人口が減少した地区）

土浦駅西口地区(①)

市の中心部である土浦駅西口地区は、図より、1980 年以降から人口が減少し続けている地域である(近年は下げ止まりの傾向にある)。原因としては、①土浦市内の中では地価が高い地域であること、②浸水想定区域内であること、③古くからの商店や住宅が立地している地域で、土地(地主)が細分化されており用地買収が難しく、再開発が進みにくいといったことが考えられる。土浦駅西口地区の人口減少は、都市中心の空洞化、活気低下を招いている。今後土浦市は、まちなか定住促進事業の事業内容の見直しも視野に、中心市街地の居住人口を増やすための対策を講じていく必要があると考える。



出典:国勢調査,2023 年は 5 月 1 日時点の常住人口

図 16 土浦市と中心市街地の人口推移

天川地区(②)、六中地区(③)

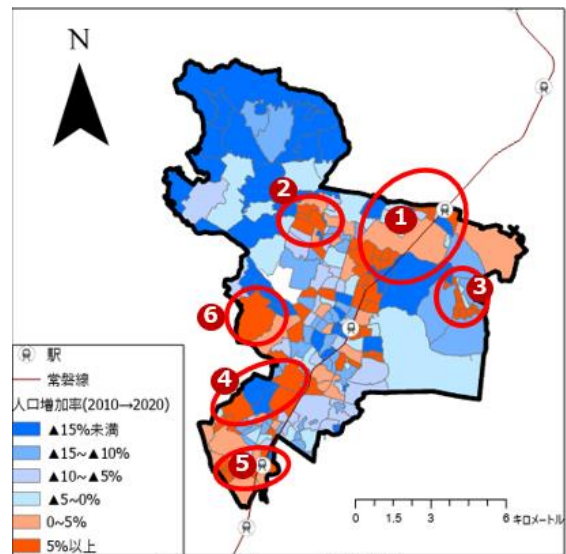
天川地区(②)や六中地区(③)には、高度経済成長期に開発されたニュータウンが点在し、新たな住民の流入も少なく高齢化・人口減少が進行している。また、開発から半世紀が経過し施設の老朽化も課題となっている。土浦市には、1990 年代から開発が進んだ永国台のほか、おおつ野地区、仲の杜地区など比較的新しいニュータウンも存在するが、これらの地区でも今後同様の課題が発生すると考えられる。

田村・沖宿地区(④)、新治地区(⑤)

田村・沖宿地区や新治地区の大部分は市街化調整区域であり、農村集落が立地している。これらの地域では高齢化率が高く、人口の減少が進行している。

2.2 人口が増加した地区

2010 年から 2020 年にかけて人口が増加した地区としては、次の 5 つが挙げられる。



出典:2010年、2020年国勢調査

図 17 2010 年から 2020 年の人口増減率（人口が増加した地区）

荒川沖駅周辺地区(①)神立駅周辺地区(⑥)

この地区は、交通や生活の利便性の高さから宅地開発が進んだこと、外国人人口の増加が人口増加の理由ではないかと考えられる。

都和地区(②)

この地区では、既存集落の中に 10~15 戸規模の宅地開発が複数ヵ所行われており、現在も開発が進行中である。

おおつ野地区(③)

おおつ野地区は 1990 年から土地区画整理事業により新興住宅地として開発がはじまった。土浦協同病院の移転をきっかけにホームセンター等商業施設が進出し、利便性が高まったことで転入者が増加した。今後 20 年間人口増加が続く見通しである。

中村・西根地区(④)

土浦市の地区計画に指定され新興住宅地として開発された仲ノ杜をはじめとして近年住宅開発が行われている地域である。おおつ野地区と同様、今後 20 年人口増加が続く見通しである。

穴塚地区(⑥)

宍塚地区は、宍塚地区は、宍塚里山や宍塚大池などがあり、豊かな自然に囲まれた集落が広がっている地域である。市街化調整区域であるが、ここ10年で、新築アパートが複数建てられたこと、老人ホームの新規開業などにより人口が増加した。

3.外国人人口について

基本情報で増えている人口の属性に外国人を挙げたので、実際にどの地域に多いのか調査した。図18より、外国人の多い地域は次の4つの地域が挙げられる。

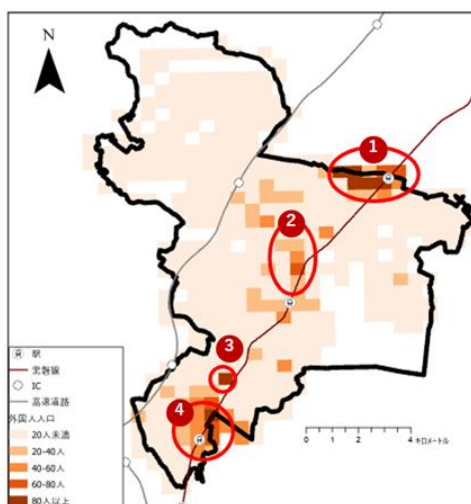


図18 外国人人口分布

神立・神立中央周辺(①)

工場や外国料理屋が多く立地していた。外国人就業者が多いと考えられる。

医療専門学校・つくば国際大学周辺(②)

この地域は土浦駅から少し北に離れたところであり、多くの医療専門学校やつくば国際大学が立地している。技能実習生や留学生が多いと考えられる。

プリマハム(株)茨城工場周辺(③)

この地域はプリマハム(株)茨城工場をはじめとする大規模な食品工場や物流センターが立地している。外国人就業者が多いと

考えられる。

荒川沖駅周辺(④)

外国の店がいくつか立地していた。また近くに国際福祉専門学校があるため留学生や技能実習生が多いと考えられる。

次に外国人が多い地域にどのような特徴があるのか現地調査を行った。図19は神立中央4丁目のゴミ捨て場の様子である。ゴ



図19 神立中央4丁目のゴミ捨て場の様子

ミ捨て場に日本語の注意書きだけではなく、英語、ポルトガル語、中国語の3つの言語の注意書きが貼られていた。また、もう1つは違うゴミ捨て場の様子である。図19を見ると、注意書きには「ゴミを捨てる時はカラスが来ないように黄色いネットを欠けてください」と書いているが、指示通りに置かれていない。また、現地調査中に神立駅前で外国人が路上にゴミを捨てる姿も見かけた。外国人の多い地域で上記のような行いをすることによって、個人の行動であるにも関わらず、外国人全体の印象へ影響する恐れがある。

以上のことをふまえると、外国人増加による課題は、地域全体でそれぞれの文化についての理解の促進に加えて、働くため、学ぶためにただ住むまちという認識からまちをきれいにしたい、守りたいと思えるような地域愛着の形成と考える。それらの課題を解決することにより地域全体で住みやすいまちづくりに繋がると考える。

2. 財政

A) 歳入

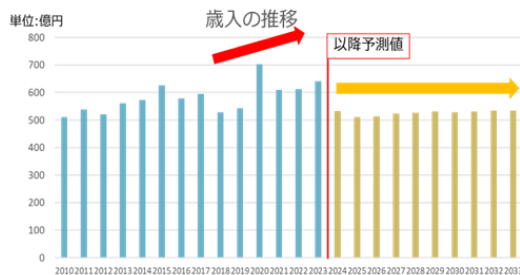


図 20 歳入の推移

土浦市の一般会計歳入は、約 500 億円から約 700 億円の間で増減を繰り返しており、ここ数年では微増傾向が見られる。そして、市が発表している将来予測では今後 10 年間は横ばいであるという見通しが立てられている。

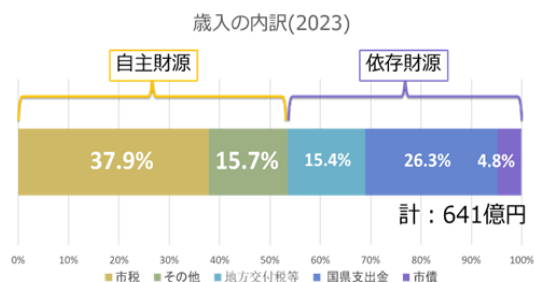


図 21 歳入の内訳 (2023)

続いて、2023 年度における歳入項目の内訳を見ると、歳入 641 億円のうち市税が 37.9%、その他(繰入金、繰越金、寄付金など)が 15.7%、地方交付税等(地方交付税、地方譲与税、地方消費税交付金など)が 15.4%、国県支出金が 26.3%、市債が 4.8% となっている。そのため、土浦市の歳入においては市税が根幹となっていると言える。また、市税とその他を合わせた自主財源の割合は約 54%である。

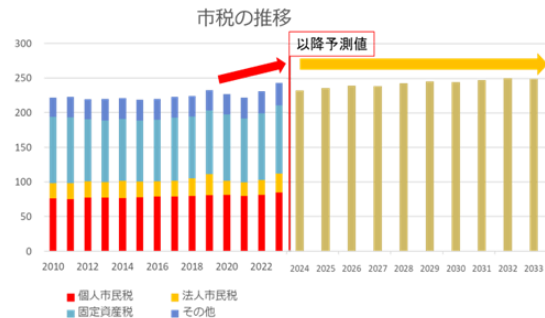


図 22 市税の推移

次に、土浦市における市税の推移を見ると、2010 年から 2023 年の間では約 200 億円程度で横ばいとなっているが、近年ではやや増加傾向が見られる。そして市の将来予測では、今後 10 年間も横ばいであるという見通しが立てられている。しかし、超長期的には人口減がさらに加速するため、税収もそれに伴って減少していくと考えられる。また、内訳を見ると固定資産税と個人市民税が大きな割合を占めていることが分かる。

B) 歳出

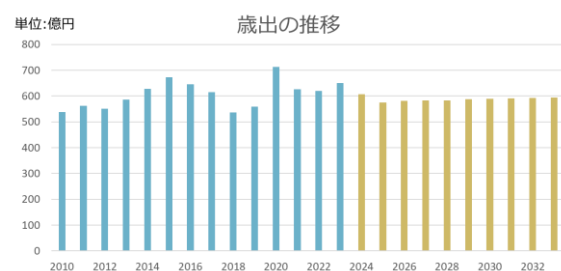


図 23 歳出の推移

歳出の推移

土浦市の歳出は、歳入と同様に約 500~600 億円の間で推移していることがわかる。歳出全体の推移は歳入と同じように動いており、2023 年以降も歳入と同様に概ね横ばいの推移と予測されている。

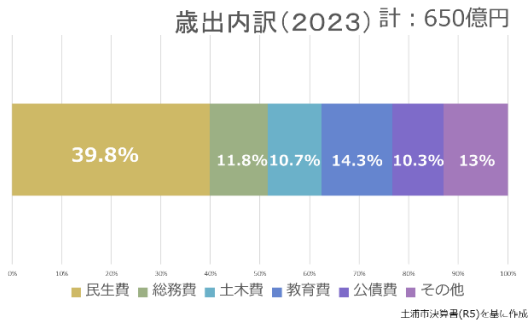


図 24 歳出の内訳 (2023)

歳出の内訳

土浦市の歳出内訳は総額 650 億円のうち、民生費が 39.8%、総務費が 11.8%、土木費が 10.7%、教育費が 14.3%、公債費が 10.3% となっている。

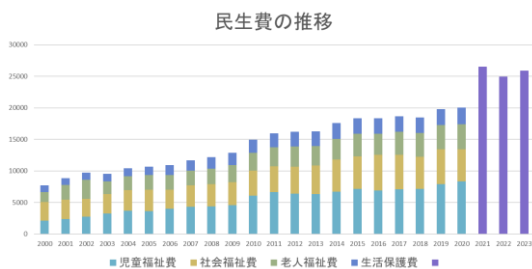


図 25 民生費の推移

民生費の推移

民生費は増加傾向であり、現在では全体の約 40% を児童福祉費が占めている状況である。民生費の増加の主な要因は少子高齢化に対する支出の増加、民生費に対しての国庫支出金、県支出金の増加が挙げられる。

C) 収支と貯蓄

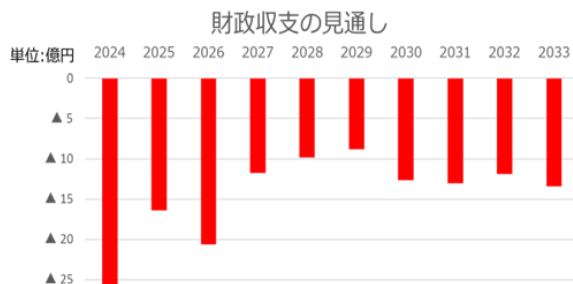


図 26 財政収支の見通し

現在の歳入から歳出を引いた値はプラスだが、歳入に基金が含まれているため、基金の補填が無ければ収支は赤字となっている。土浦市における今後の財政収支は、高齢化の進展に伴う扶助費の増加や大規模事業の実施に伴い発行した市債の償還に伴う公債費の増加などの要因で赤字になる見通しである。

基金について

基金は市町村の貯蓄に当たる。大きく 2 種類の基金があり 1 つは一般財源基金である、財政調整基金と市債管理基金、もう一つは特定目的基金がある。財政調整基金は、地方自治体の予算執行において、不測の事態や年度間の収支のばらつきを調整するために積み立てられる基金である。市債管理基金は、市債（地方債）の償還に備えるための基金である。地方自治体が資金調達のために発行した市債の返済義務を果たすため、あらかじめ積み立てられる。この基金を通じて、市債の償還スケジュールに応じた計画的な返済が行われ、将来の財政負担の軽減を図る役割を担っている。特定目的基金は、特定の目的のために設立される基金であり、学校施設の改修や公共インフラの整備、福祉事業の支援など、特定の事業や施策を進めるために、財源を確保するために用意される。この基金は、一般的に特定のプロジェクトのためにのみ使用されるため、他の財政調整や市債管理とは異なり、特定目的の達成に特化している。土浦市で見通しでは基金残高が減少すると有事の際の対応困難になるとしている。

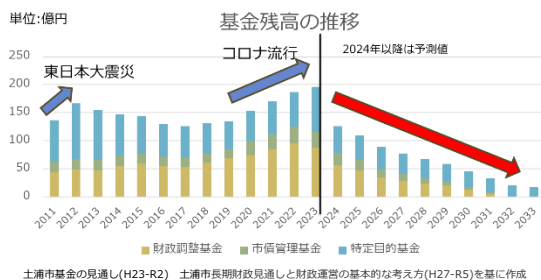


図 27 基金残高の推移

基金の現状

基金の推移から有事の際に基金残高が大きく増加していることがわかる。これは有事の際の国から補助金を受け取る一方で、歳出を抑えることで基金積み立てを行っているためである。将来予測は扶助費の増加や施設改修などによる収支不足に伴い、枯渇寸前になる見通しである。現状では有事の際の補助金が基金残高の延命になっているが、これらの補助金永続的ではなく不安定であるため、健全な財政運営には補助金に頼らずに基金を積み立てていきたい。

3. 市の見通しに対して

A) 人口 市の見通し

土浦市は、第2期土浦市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略にて、「施策展開により、年少人口比率が中長期的には13%後半で安定推移し、生産年齢人口割合の上昇トレンドへの転換、老年人口割合

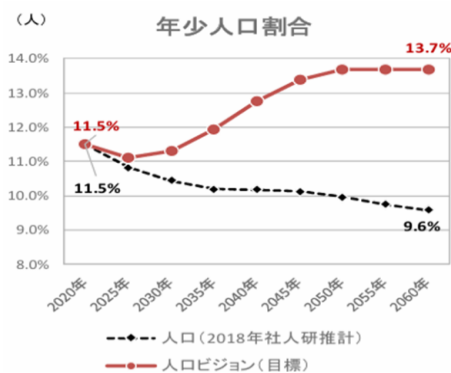


図 28 今後の年少人口割合^[6]

の下降トレンドへの転換など、人口構造の若返りも目指します。」^[6]と、今後の目標を示している。また、年少人口の割合増加に向け、国庫支出金の影響もあり、約8億円、民生費の約40%が児童福祉費の項目に投資されている。

しかし、上記の図の通り、2018年社人研推計によると、2020年から2060年にかけて、年少人口は低下していくと予想される。実際人口の際に記述があった通り、2024年の年少人口の割合は10.4%と、低下しており、目標である13%後半は実現できていない。また、先述の通り民生費のうち、多くが児童福祉費に投資されているが、土浦市の子育て支援について調べてみると、一番上にサジェストされる、「子育て支援 | 土浦市公式ホームページ」は、お探しのページは見つかりません。となっており（google 11/12 現在）、土浦に暮らす市民や、他の市区町村から移住を考える人が、情報を得ることができる入口の整備が、十分とは言えず、様々な施策を行うことに並行して、専門的な情報だけでなく、市民などでもわかりやすい情報の開示の仕方も整えていくべきではないかと考える。

B) 財政 市の見通し

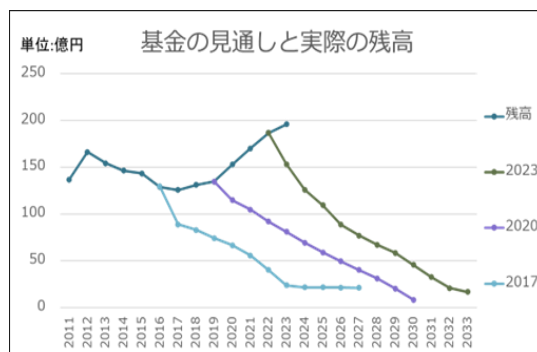


図 29 基金の見通しと実際の残高

土浦市の2017年の予測では、2024年時

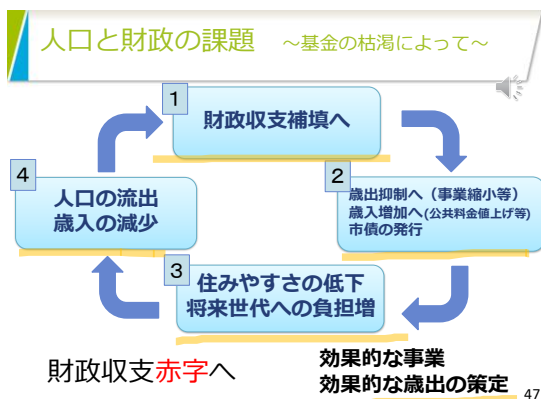
点で基金がほぼ枯渇すると予測されていたが、実際は枯渇しているどころか大きく増加しており、実際の基金残高と各年の市が発表している予測値との間には大きな乖離があると言える。しかし、短い目で見ると基金全体は増加している一方で、今後は市内施設の老朽化に伴う改修や高齢化などの要因で扶助費・公債費が増加し収支不足が進むため、市の予測のような基金の減少が見られると考えられる。

4. 将来予測される問題と課題

人口が減り税収が減る中で、現状の予測では、人口の分布に大きな変化はなく、インフラの維持に必要な費用は変わらない。つまり、収入は減り、出費は変わらず、市民一人当たりの負担は増えていくと考えられる。

土浦市は、現状として、財政収支の赤字解消に基金を使用しており、また基金は減少傾向にある。このまま、コロナのパンデミックといった大きな社会の変化などが起きず、現状が進むと、将来として、基金が枯渇することが予測されている。それによって、財政収支の補填が基金を用いて行うことが出来なくなると考える。

それによって、起こることとして、財政収支の補填のために、歳出の抑制にむけた事業の縮小や、歳入の増加に向けた税金や公



共料金の値上げ、また市債の発行などが起こると考えられる。それらが、土浦市の住みやすさの低下や将来の世代への負担増を招き、人口の流出ひいては歳入の減少、財政収支の悪化につながると考え、図のような、負のスパイラルが起きてしまうのではと考える。

このような事態を避けるため、財政収支の赤字の対策として、効果的な事業、歳出の策定を行うことが課題であると考え。効果的な事業、歳出の策定を行うことで、図のような正のスパイラルを実現できると考えている。



5. まとめ

土浦の人口は、日本全体のトレンドである少子高齢化、人口減少に加え、人口分布は変化がないなか、中心市街地の人口密度は低下している現状にある。

また、財政としては、財政収支が赤字であること、またそれに伴って基金が減少しているという現状にある。

これらの現状に対して、昼間人口の多さや転入超過の現状を活用すること、また中心市街地の魅力の創出、財政や年少人口の、正しい現状把握、予測さらにアプローチの方法の見直しといった対策などの課題が見受けられた。

それらの課題を理解し、解決に向かっていくことでより良い、より住みやすい土浦につながると考えている。

6. 参考文献

<人口>

- [1] 国立社会保障・人口問題研究所「『日本の地域別将来推計人口』(令和5(2023)年推計)」(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/3kekka/Municipalities.asp>
- [2] 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&tstat=000001039591&cycle=7&tclass1=000001039601&tclass2val=0>
- [3] 茨城県「茨城県人口動態統計」(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/koso/iji/koso/stachischics/population/index.html>
- [4] 茨城県データ集(市町村別在留外国人数)(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.pref.ibaraki.jp/bugai/kokusai/tabunka/jpn/data/index.html>
- [5] 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.stat.go.jp/data/idou/>
- [6] 第2期土浦市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/shisei/shinokeikaku/shisei/sogosenryaku/page013299.html>
- [7] 土浦市中心市街地活性化基本計画(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/shisei/shinokeikaku/shisei/sogosenryaku/page013299.html>
- [8] e-Stat 国勢調査令和2年度 従業地・通学地による人口・就業状態等集計(最終閲覧 2024/11/11)
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001136469&stat_infid=000032214162&result_page=1&tclass2val=0&metadata=1&data=1
- [9] 令和5年度統計つちうら 2 人口・世帯(最終閲覧 2024/11/11)
https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1648794317_doc_8_0.pdf
- [10] 土浦市多文化共生推進プラン(後期計画)全編(最終閲覧 2024/11/11)
https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1428989520_doc_14_0.pdf

<財政>

- [11] 平成22年度土浦市主要施策の成果説明書(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page003617.html>
- [12] 平成23年度土浦市主要施策の成果説明書(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page004925.html>

- [13] 平成 24 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page004926.html>
- [14] 平成 25 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page006394.html>
- [15] 平成 26 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page008186.html>
- [16] 平成 27 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page009218.html>
- [17] 平成 28 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page010385.html>
- [18] 平成 29 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page012101.html>
- [19] 平成 30 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page012613.html>
- [20] 令和元年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page014804.html>
- [21] 令和 2 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page016597.html>
- [22] 令和 3 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page017731.html>
- [23] 令和 4 年度土浦市主要施策の成果説明書（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page019157.html>
- [24] 土浦市歳入歳出決算書(R2-R5)（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/shisei/zaseikeikaku-yosan/kessansho/>
- [25] 土浦市長期財政見通しと財政運営の基本的な考え方(H27-R5)
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page008134.html>
- [26] 土浦市基金の状況(H22-R2)(最終閲覧 2024/11/11)
<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page005691.html>
- [27] 土浦市行財政集中改革プラン（最終閲覧 2024/11/11）
https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1709603138_doc_223_0.pdf
- [28] e-Stat データ表示 | 市区町村データ | 社会・人口統計体系 | 地域から探す | 政府統計の総合窓口（最終閲覧 2024/11/11）
<https://www.e-stat.go.jp/regional-statistics/ssdsview/Municipality>